

令和 7 年度

(2025 年度)

事 業 報 告 書

第 1 部 法人の概要

第 2 部 学校教育計画、学校評価及び外部評価委員会の概要

第 3 部 財務概況(計算書類)

学校法人 淀之水学院

昇陽中学校・昇陽高等学校

第1部 法人の概要

1. 法人の設立

(法人の名称) 学校法人 淀之水学院

(法人の住所) 〒554-0011 大阪市此花区朝日1丁目1番9号

(法人の設立) 大正13年3月27日

(電話 番号) 06-6461-0091

(建学の精神 「奉仕のこころ」)

1. 「For Others～奉仕のこころ～、志高く」(建学の精神の再確認)

2. 「10年後の私たちのために」将来の予測不能な社会を生き抜くことのできる人材づくり

(教育目標、めざす生徒像)

1. 思いやりや感謝の気持ちや「奉仕のこころ」などを素直に表すことのできる高い人間性の育成

2. 基礎学力を十分に積み上げた上で、自分の頭で課題や問題に向き合うことのできる思考力・判断力の育成

3. 部活動や学校行事などに努力し共に励まし喜びを分かちあえる豊かな心と健やかな体の育成

4. 個々の生徒の個性や能力や特性に合わせ、生徒の力を最大限に伸ばし、生徒・保護者に「行きたい・通わせたい」と思わせる学校づくりを目指す。

(校 訓) 清純、質実

(中期的目標)

1. 基礎学力の充実からみずから考える力へ 「授業第一主義」

2. 個々の生徒に輝く居場所を作り、活力のある充実した学校生活を過ごさせる。

3. 知・徳・体のバランスの取れた教育と豊かな人間性の醸成 「生徒指導なくして学習指導なし」

4. 学び、連携できる教員集団

2. 学校法人・学校の沿革

1924年	大正13年3月27日	大阪府西成郡豊崎町北長柄(現大阪市北区)に「淀之水女学校」設立 創立者 吉川竹三郎
1944年	昭和19年5月2日	財団法人 淀之水高等女学校を設立登記し、木村幸次郎が理事長に就任する。
1947年	昭和22年4月1日	学制改革により、淀之水中学校を併設する。
1948年	昭和23年4月1日	大阪府知事より、淀之水高等学校設立を認可される。
1949年	昭和24年4月1日	大阪市此花区嬉ヶ先町一番地に新校舎が完成移転を完了する。(第1期工事)
1950年	昭和25年4月15日	夜間部の開設授業を開始する。
1951年	昭和26年3月8日	財団法人淀之水高等学校を学校法人淀之水学院に組織変更し、認可される。 木村幸次郎理事長が就任する。
1952年	昭和27年10月24日	第2期校舎増築工事竣工(講堂・特別校教室・図書室)
1954年	昭和29年7月25日	第3期校舎増築工事竣工
	昭和29年12月1日	私学法施行五周年記念式典が、大阪府庁で挙行され、理事長 木村幸次郎氏が私学振興功勞者として大阪府知事より表彰される。
1957年	昭和32年7月26日	木村晃 学校法人 淀之水学院理事長に就任する。
1959年	昭和34年2月18日	旧南館 第4期工事鉄筋コンクリート三階建(1,221㎡)竣工する。
1963年	昭和38年11月30日	南西館 第5期工事鉄筋コンクリート三階建(2,904㎡)竣工する。
1964年	昭和39年7月14日	高架下館 付属校鉄骨二階建(983㎡)竣工する。

1965 年	昭和 40 年 3 月 30 日	北館及び体育館 第 6 期工事鉄筋コンクリート四階建(3,406 m ²)を竣工する
1968 年	昭和 43 年 4 月 1 日	商業科を設置する。
1974 年	昭和 49 年 10 月 23 日	創立 50 周年記念式典を挙げる。
1978 年	昭和 53 年 3 月 1 日	新北館鉄筋コンクリート四階建(1,635 m ²)を竣工する。(商業教室、図書館等)
1984 年	昭和 59 年 2 月 17 日	新体育館兼講堂並びに食堂(2,323 m ²)を竣工する。
1993 年	平成 5 年 2 月 10 日	木村敏 学校法人 淀之水学院 理事長に就任する。
1994 年	平成 6 年 4 月 1 日	普通科に普通コース・英語コース、商業科に商業コース・情報コースを設置する。
1999 年	平成 11 年 3 月 16 日	新南館(4,343 m ²)を竣工する。
	平成 11 年 4 月 1 日	福祉科を設置する。
2004 年	平成 16 年 4 月 1 日	普通科に総合(進学・一般)コース・ビジネスコース、福祉科に福祉コース・看護福祉コースを設置する。
2005 年	平成 17 年 4 月 1 日	普通科に特進・国際コース・標準コース・ビジネスコース、福祉科に福祉コース・看護福祉コース・保育福祉コースを設置する。
	平成 17 年 5 月 24 日	鶴巻榮二 学校法人 淀之水学院 理事長に就任する。
2007 年	平成 19 年 4 月 1 日	普通科に特進コース・標準コース・パティシエコースを設置する。
2009 年	平成 21 年 3 月 30 日	大阪府知事より、淀之水学院昇陽中学校併設を認可される。
2010 年	平成 22 年 4 月 1 日	学校名を昇陽中学校、昇陽高等学校に変更する。
	平成 22 年 4 月 1 日	普通科の特進・標準(進学)コースのみ、男女共学とする。
2011 年	平成 23 年 4 月 1 日	普通科に特進コース・進学コース・パティシエコース・ビジネスコース、福祉科に福祉コース・看護福祉コース・保育福祉コースを設置する。
2012 年	平成 24 年 4 月 1 日	高校全コースを男女共学とする。
2015 年	平成 27 年 3 月 30 日	東館(3,587 m ²)を竣工する。
	平成 27 年 4 月 1 日	普通科に特進コース・進学コース・看護・医療系進学コース・ビジネスコース・パティシエコース、福祉科に福祉コース・保育福祉コースを設置する。
	平成 27 年 8 月 25 日	新北館鉄筋コンクリート四階建(1,635 m ²)の耐震改修工事を完了する。(商業教室、図書館等)
2016 年	平成 28 年 4 月 1 日	普通科に特進コース・進学コース・看護・医療系進学コース・公務員チャレンジコース・ビジネスコース・パティシエコース、福祉科に福祉コース・保育福祉コースを設置する。
2019 年	平成 31 年 1 月 24 日	木村嘉子 学校法人淀之水学院 理事長に就任する。
2020 年	令和 2 年 1 月 30 日	城山キャンパスグラウンド人工芝設置工事完了 6,656 m ²
	令和 2 年 4 月 1 日	本校新練習コート人工芝設置工事完了 200 m ²
	令和 2 年 4 月 1 日	普通科に IT フロンティアコース、進学Ⅱ・Ⅲを設置する。
	令和 2 年 11 月 18 日	竹下健治 学校法人淀之水学院 理事長に就任する。
	令和 2 年 12 月 16 日	南西館耐震改修工事完了する。
2021 年	令和 3 年 1 月 22 日	城山体育館耐震改修工事完了する。
2022 年	令和 4 年 4 月 1 日	普通科に保育教育コースを設置する。
2024 年	令和 6 年 10 月 24 日	創立 100 周年記念式典を挙げる。
2025 年	令和 7 年 8 月 26 日	此花キャンパス 食堂リニューアル工事完了
2025 年	令和 7 年 11 月 7 日	此花キャンパス 体育館棟 空調設備工事完了

3. 役員名簿(令和8年(2026年)3月31日現在)

①理事5名

	役職名	氏名
1	理事長・1号理事	竹下 健治
2	2号理事	千貝 孝三郎
3	2号理事	浅野 勝英
4	3号理事	桑原 志郎
5	3号理事	奥谷 彰男

②監事2名

	役職名	氏名
1	監事	中條 伊代子
2	監事	松川 奈央

③評議員6名

	役職名	氏名
1	1号評議員	茨木 久治
2	1号評議員	中谷 勝寿
3	2号評議員	喜多 泰子
4	2号評議員	久野 久恵
5	3号評議員	岡田 裕伸
6	3号評議員	千木良 孝志

4. 生徒の在籍状況

(昇陽中学校)

	1年	2年	3年	合計
男子	17名	19名	10名	46名
女子	9名	15名	8名	32名
計	26名	34名	18名	78名

※令和8年(2026年)5月1日現在 昇陽中学校 在籍数(学校基本調査参照)

(昇陽高等学校)

	1年	2年	3年	合計
男子	193名	169名	129名	491名
女子	111名	102名	86名	299名
計	304名	271名	215名	790名

※令和8年(2026年)5月1日現在 昇陽高等学校 在籍数(学校基本調査参照)

第2部 学校教育計画、学校評価及び外部評価委員会の概要

1. 令和7年度 昇陽中学校・高等学校「学校教育計画」及び「学校評価」の事業報告

令和7年度 昇陽中学校・高等学校「学校教育計画」及び「学校評価」

昇陽中学校・高等学校

校長 竹下 健治

I めざす学校像

建学の精神

「奉仕のこころ」

1 「For Others～奉仕のこころ～、志高く。」(建学の精神の再確認)

2 「10年後の私たちのために」将来の予測不能な社会を生き抜くことのできる人材づくり

教育目標、めざす生徒像

1 思いやりや感謝の気持ちや「奉仕のこころ」などを素直に表すことのできる高い人間性の育成

2 基礎学力を十分に積みあげた上で、自分の頭で課題や問題に向き合うことのできる思考力・判断力の育成

3 部活動や学校行事などに努力し共に励まし喜びを分かちあえる豊かな心と健やかな体の育成

4 個々の生徒の個性や能力や特性に合わせ、生徒の力を最大限に伸ばし、生徒・保護者に「行きたい・通わせたい」と思われる学校づくりをめざす。

II 中期的目標

1 基礎学力の充実から自ら考える力へ 「授業第一主義」

(1) 基礎学力の充実と「主体的・対話的で深い学びへ」

ア 授業学力の充実として宿題・課題とその定着確認を日々行う。また、自習室の設置や放課後、長期休業中の学習促進を図る。※学習指標である GTZ 指標を基に、各コースの学力定着・学力向上を図る。

イ 「ミネルヴァ・プラン」を中心に「探究の学び」を取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」のために ICT 教育やアクティブラーニングを推進する。

ウ IT フロンティアコースは4分野（プログラミング、制御「ロボット・ドローン」、アニメ、eスポーツ）を柱として育成する。

エ 各コースの目標を設定し、積極的に資格、検定を取得させる。また、進学・特進コースは模試による学力チェックや英語力の向上を図る。特に、中学校は英検の検定合格を重点とする。その結果として、個々の生徒の進路実現を図る。

2 個々の生徒に輝く居場所を作り、活力ある充実した学校生活を過ごさせる。

(1) 全コースで、時代に即した活力ある人材育成を図る。そのため、基礎学力を定着させ、応用的学力を向上させる。また、全コースの特色をさらに磨き、探究の学びや実践型学習や外部実習などに努める。さらに部活動や学校行事を活性化させ、生徒の可能性を最大限伸ばす。これらの結果として、個々の生徒の進路実現を図る。

(2) 「For Others～奉仕のこころ～、志高く」の人材育成のための取組みを各コースや探究学習や学校行事等の中で行う。

(3) 100周年記念事業後も施設改修を続け、学習環境の改善を図る。

3 知・徳・体のバランスの取れた教育と豊かな人間性の醸成

「生徒指導なくして学習指導なし」

(1) 授業に集中できる学習環境、授業規律や生活習慣の改善

ア 時間の厳守、挨拶、身だしなみを整えさせる。予鈴の実施で「ベル始業」を徹底させる。

(2) 人権意識の醸成

ア 人権研修（生徒向け、教職員向け）の実施（差別事象、ハラスメント、SNS、いじめ等多様な人権教育の指導）

4 魅力ある学校づくりに参画する教職員集団

(1) 授業力向上の取組み

ア 相互授業見学や研究授業・研究討議で授業力向上に努める。また、積極的に外部研修や外部視察を行い、授業力向上の方法や学校運営方法などを学ぶ。

(2) 生徒が輝く魅力ある学校づくり

ア 生徒が輝く魅力あるコースへ切磋琢磨する教員集団（探究学習、各コースの活性化のための研修や会議）

5 不登校生徒など配慮を要する生徒への組織的対応として教育支援体制を構築する。

(1) その他

ア 「チーム昇陽」の構築…内規、規則の整備。小会議やミーティングで情報共有

イ 「昇陽スタンダード」や懲戒規定の改訂を通じて、コンプライアンス（法令遵守）を徹底する。

ウ ICT環境を整え、ホームページを充実させる。SNS等を使用して積極的に外部発信する。（記録、更新の促進）」

Ⅲ 本年度の取組み内容及び自己評価

	今年度の重点目標	具体的な取組み計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎 学力 の充 実か ら自 ら考 える 力へ	1) 基礎学力の充実 ア 基礎学力の定着 イ 探究の学びとICT教育の展開	・学力指標 GTZ による学力定着および学力向上を図る ・宿題・課題とその定着確認 ・放課後、長期休業中の講習の充実 ・朝の HR に朝読と朝テスト ・ICT 教育等の研究授業実施 ・探究の学びの実践 ・ICT 教育等の研究授業実施 ・中学校1年、高等学校1年全員に、1人1台のクロームブックを使用させ、新たなICT教育の取組みを行う。	・学校教育自己診断での生徒の「授業関係」肯定的評価 3% 上げる。 ・基礎学力テスト等の分析・検討 ・各コースの GTZ を下げない。 ・講習の開講日数および参加者状況 ・朝テストの実施率 ・ICT 教育関係施設整備状況及び研究授業実施状況 ・探究の学びの実践例 ・ICT 教育事例	・「授業関係」高校 4.2%下げる▲ 中学 4.8%上がる◎ ・結果の確認だけで、検討にまで至らず△ ・GTZ は現状維持○ ・講習は継続しているが日数は減少△ ・朝テスト、高校はコースによる△ 中学◎ ・DX ハイスクール事業でテックフロンティア整備◎ ・標準進学での地域探究、中学での探究の学び等○ ・中学「すらら」ICT 教材利用◎

1 基礎 学力の 充実か ら自ら 考える 力へ	ウ ITフロンティア コースの4分野の展開 エ 各コースの目標設定	・プログラミング、ドローン、デジタルアート、eスポーツの取組み ・各コースの目標設定 ・英検、GTECの充実 ・英検、数検、漢検の受検促進 ・特進、進学コースの進路実現 ・探究の学びなどから総合型選抜受験での進路決定率を高める	・各取組みの活動状況 ・デジタルアートの取組み事例 ・学校教育自己診断での「進路指導」関係評価3%上げる。 ・キャリアビジョン形成取組み ・キャリアパスポートの作成 ・英語の外部検定試験合格者数（英検） ・難関私立大学合格者数 ・総合型選抜入試の受験数	・プログラミング権受験○ ・アートカレッジ神戸でのeスポーツ体験◎ ・韓国梁山人工知能高校との交流◎ ・年6回アニメーターによる講習会◎ ・「進路関係」6.2%下がる▲中学校3.8%上がる◎ ・分野別説明会、大学見学、進路講演○ ・特進、標準、パティシエ、看護、保育、公務員などのキャリア教育◎ ・高校2級2名（昨年0名）、準2級（新設）3名、準2級10名（昨年6名）◎ ・同志社1名、関大4名、近大5名、京産大3名◎ ・進学204名中83名総合選抜型入試受験、64名指定校入試受験○
--	---	--	--	--

1 基礎 学力の 充実か ら自ら 考える 力へ		・就職・公務員希望者の進路実現 ・模試による学力評価 ・パティシエコースに製菓衛生師資格取得へ ・福祉コースの進路実現 ・中学校において英検・漢検・数検を更に受験させ、実績を上げる。 - 放課後、昇陽塾を開き、個々の生徒の学力に応じた指導をおこなう。	・就職希望内定率を100% ・公務員試験合格者 ・介護福祉士国家試験合格率85%以上 ・中学校英検等、昨年度以上 ・昇陽塾の利用状況	・学校斡旋100% ◎ ・大阪府警合格◎ ・介護福祉士国家試験13名受験 ・中学2級1名（昨年0名）、準2級+（新設）1名、準2級2名（昨年4名）◎ ・利用があるが毎日ではない△
---	--	--	--	--

			・部活動参加率	・福祉ボランティア部、此花区子ども食堂のお手伝いなど◎ ・高校 46%（昨年 46%）○ ・中学 82%（昨年 86%）△
--	--	--	----------------	--

4 魅力ある学校づくりに参加する教職員集団	(1) 授業力向上の取り組み	・授業公開週間の設定 ・授業アンケートの実施 ・各教科・科目のシラバスの充実 ・夏季休業中の外部研修受講 ・先進校訪問 ・各種委員会（将来構想委員会、ICT 検討委員会、コース長会議、教育支援委員会）による新たな課題対応	・相互授業見学、研究協議の実施 ・教職員「昇陽スタンダード」の周知 ・観点別評価実施状況 ・教職員研修会の開催件数 ・先進校訪問	・授業研究週間○ ・「昇陽スタンダード」「ハラスメント」など周知○ ・観点別評価定着◎ ・人権研修 1 回△ ・先進校訪問できず△
	(2) 魅力ある学校づくり ア 魅力ある 8 コース	・各コースの探究の学び等の活動 ・不登校生徒の組織的対応 ・生徒の欠席等の日常生活の把握	・「探究」授業の実施状況 ・各コース活動実践例 ・教育支援センターの定着 ・中退者の減少 ・	・各コースでの活動実践◎ ・不登校生の登校回数増加◎ ・教育支援センターの定着◎ ・中退者 昨年と同レベル数○
	(3) その他	・内規・規則の整備 ・学校ウェブサイトの刷新	・内規等の整備・共有 ・学校ホームページの更新状況 ・教職員評価制度の研究	・NEWS 更新 41 回（昨年 54 回） ・インスタ更新 55 回（昨年 98 回）△ ・評価制度の研究△

2. 外部評価委員会の概要

第1回 外部評価委員会 令和7年9月6日(土) 午前10時 本校会議室

参加者：地元地域校長、大学教授、教育関係者、保護者会会長(欠) 学校関係者

- 1 委嘱状交付
- 2 委員紹介
- 3 令和7年度 学校教育計画について(校長より説明)
 - ・ICT教育やデジタル・アートでの取組みの推進
 - ・各コースの探究実践型学習の推進
 - ・教育支援センターが実質的に始まる。進捗状況を注視する必要がある。
 - ・生徒指導の強化。安心・安全な教育環境の醸成(評価委員のからのご意見)
 - ・エッセンシャルワーカー育成の視点が必要ではないか。そのために育成すべき力、資質能力の育成方法を各教科と連携しながら作っていく必要がある。
 - ・教育支援センターのスタートが順調で安心した。
 - ・非認知能力を高める教育が注目されている。これから取組む必要があると思われる。
 - ・将来的に部活動の位置づけをどうするかを考える必要がある。

第2回 外部評価委員会 令和8年3月14日(土) 午前10時 本校会議室

参加者：地元地域校長、大学教授、教育関係者、保護者会会長、学校関係者

- 1 学校教育計画および学校評価と学校教育自己診断アンケートに対する分析と説明(学校教育計画および学校評価)
 - ・学力評価のGTZはあまり変化がない。
 - ・DXハイスクールのITの施設整備は評価できる。
 - ・進路で大学については総合型入試が多かった。関関同立や産近甲龍などの難関私立大学の一般入試合格者が多数出た。
 - ・就職について、学校斡旋就職は100%であった。
 - ・中学校2年生で、複数人が英検2級や準2級に合格した。
 - ・生徒指導関係評価が下がっている。特に、遅刻者が増えた。授業集中の意識も下がっている。教職員全体がマルチタスクが原因で、生徒対応できていないのではないか。
 - ・各コースの活動は活性化している。パティシエやITフロンティアや福祉は常に新しいプログラムに挑戦している。
 - ・教育支援センターを立ち上げたが概ね順調であった。不登校経験者であっても入学後に元気に登校してくれている生徒が多数いた。
 - ・(学校教育自己診断アンケートについて)
 - ・「学校満足度」について、高校は昨年度より0.7%上昇した。中学校は3.7%下がった。中学校は生徒数が少ないので上下しやすいが、全体的には高評価である。
 - ・「授業関係」では、高校は4.2%下がり、中学校は4.8%上がった。高校の場合、授業集中や学力向上に対する意識が下がってきていると思われる。併せて、「進路関係」でも高校は下

がり、中学校は上がった。授業と進路の相関関係があると思われる。

- ・「学校行事」に対して、高校は 0.9%上がり、中学校は 3.1%上がった。体育大会や文化祭や校外学習などで生徒主体の行事にしている事が高評価につながっている。
- ・保護者の皆さんの結果について、昨年と同様で学校満足度に関して、高校保護者が中学校保護者より高い。ただし、高校保護者の全体的な項目の数値は下がっている。様々な理由で保護者の皆さんに不安感を抱かせていると思われる。

2 学校教育計画および学校評価と学校教育自己診断アンケートに対しての評価委員のご意見

- ・全般的に多岐にわたる努力で成果があがっている。
- ・最近の生徒はスマホの使用で聞く力が落ちているので、傾聴力や読解力を上げる方法を考えてほしい。
- ・保護者会の参加率が高い学校は、前向きに進むとあるが、本校はどうなのか。
- ・体育大会で保護者の皆さんの来場で満席になった。文化祭で保護者会からキッチンカーの補助を行ない盛況であった。
- ・本校は今年新聞や SNS に上げられたが、学校を見て、保護者は騒ぎ立てる事はなかった。
- ・遅刻者数が上がっているのが気になった。コロナの結果がこうようになったのかもしれない。これからは、生徒指導より「支援」することが、生徒の状況にあっているのではないかな。
- ・非認知能力の育成も必要である。教育支援センターがうまく機能している事はよろこばしい。
- ・いろいろな取組みがあつていいなと思った。生徒から自分ではできるようになったという声が聞きたい。
- ・保護者として、この学校に来させてもらって、良かったと思っている。

第3部 財務の概況(計算書類)

1. 令和7年度の計算書類(資金収支計算書、資金収支内訳表、事業活動収支計算書、事業活動内訳表、貸借対照表等)

(1) 資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動における収入と支出の内容並びに支払資金の状況を明らかにしたものです。

『令和7年度 資金収支計算書 (4月1日～3月31日)』 (単位:円)

収入の部	2025年度(令和7年度)	2024年度(令和6年度)	増 減
学校生徒等納付金収入	407,437,431	415,529,430	△ 8,091,999
手数料収入	13,428,100	13,766,400	△ 338,300
寄付金収入	5,839,105	5,822,000	17,105
補助金収入	538,068,415	498,046,048	40,022,367
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	1,420	990	430
受取利息・配当金収入	80,242	26,625	53,517
雑収入	80,942,723	42,055,331	38,887,392
借入金収入	142,500,000	20,000,000	122,500,000
前受金収入	46,680,000	46,290,000	390,000
その他の収入	39,084,866	257,989,208	△218,904,342
資金収入調整勘定	△146,823,918	△ 84,232,177	△62,591,741
前年度繰越支払資金	226,262,704	214,170,824	12,091,880
収入の部合計	1,353,501,088	1,429,464,679	△75,963,591

支出の部	2025年度(令和7年度)	2024年度(令和6年度)	増 減
人件費支出	643,732,213	589,406,377	54,325,836
教育研究経費支出	279,853,798	270,366,163	9,487,635
管理経費支出	44,046,002	37,052,002	6,994,000
借入金等利息支出	2,011,546	1,082,152	929,394
借入金等返済支出	39,650,000	49,720,000	△10,070,000
施設関係支出	78,893,000	984,500	77,908,500
設備関係支出	10,805,146	19,342,048	△8,536,902
資産運用支出	30,659	77,055,194	△77,024,535
その他の支出	40,892,189	194,932,713	△154,040,524
資金支出調整勘定	△32,690,199	△ 36,739,174	4,048,975
翌年度繰越支払支出	246,276,734	226,262,704	20,014,030
支出の部合計	1,353,501,088	1,429,464,679	△75,963,591

『資金収支内訳表』

『令和7年度 資金収支内訳表 (4月1日～3月31日)』

(単位：円)

収入の部	昇陽高等学校	昇陽中学校	総額
学校生徒等納付金収入	357,563,267	49,874,164	407,437,431
手数料収入	12,978,100	450,000	13,428,100
寄付金収入	5,324,490	514,615	5,839,105
補助金収入	498,790,183	39,278,232	538,068,415
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	1,337	83	1,420
受取利息・配当金収入	80,242	0	80,242
雑収入	62,072,390	18,870,333	80,942,723
借入金収入	147,480,000	△4,980,000	142,500,000
前受金収入	44,680,000	2,000,000	46,680,000
その他の収入	38,536,121	548,745	39,084,866
資金収入調整勘定	△125,684,948	△21,138,970	△146,823,918
前年度繰越支払資金	223,326,784	2,935,920	226,262,704
収入の部合計	1,265,147,966	88,353,122	1,353,501,088

支出の部	昇陽高等学校	昇陽中学校	総 額
人件費支出	581,222,535	62,509,678	643,732,213
教育研究経費支出	216,866,456	62,987,342	279,853,798
管理経費支出	37,847,528	6,198,474	44,046,002
借入金等利息支出	2,011,546	0	2,011,546
借入金等返済支出	39,650,000	0	39,650,000
施設関係支出	78,893,000	0	78,893,000
設備関係支出	10,805,146	0	10,805,146
資産運用支出	△734,902	765,561	30,659
その他の支出	39,876,739	1,015,450	40,892,189
資金支出調整勘定	△32,469,697	△220,502	△32,690,199
翌年度繰越支払支出	255,514,220	△9,237,486	246,276,734
支出の部合計	1,229,482,571	124,018,517	1,353,501,088

(2) 事業活動収支計算書は、当該会計年度の事業活動の収入及び支出内容並びに基本金組入後の均衡の状態を明らかにしたものです。

【事業活動収支計算書】

令和7年度 事業収支計算書（4月1日～3月31日）

（単位：円）

		科目	2025 年度（令和 7 年度）	2024 年度（令和 6 年度）	増減
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	407,437,431	415,529,430	△8,091,999
		手数料収入	13,428,100	13,766,400	△338,300
		寄付金	5,839,105	5,822,000	17,105
		経常費等補助金	525,602,415	498,046,048	27,556,367
		付随事業収入	1,420	990	430
		雑収入	81,332,723	42,055,331	39,277,392
		教育活動収入	1,033,641,194	975,220,199	58,420,995
	支出の部	人件費	650,537,660	589,406,377	61,131,283
		教育研究経費	389,469,665	381,628,385	7,841,280
		管理経費	45,976,469	39,080,654	6,895,815
		徴収不能等	0	10,246,224	△10,246,224
		教育活動支出計	1,085,983,794	1,020,361,640	65,622,154
	教育活動収支差額		△52,342,600	△45,141,441	△7,201,159
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	80,242	26,625	53,617
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	80,242	26,625	53,617
	支出の部	借入金等利息	2,011,546	1,082,152	929,394
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	2,011,546	1,082,152	929,394
	教育活動外収支差額		△1,931,304	△1,055,527	△875,777
	経常収支差額		△54,273,904	△46,196,968	△8,076,936
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	12,466,000	1,355,200	11,110,800
		特別収入計	12,466,000	1,355,200	11,110,800
	支出の部	資産処分差額	0	0	0
		その他の特別支出	13,979,000	1,355,200	12,623,800
		特別支出計	13,979,000	1,355,200	12,623,800
	特別収支差額		△1,513,000	0	△1,513,000
基本金組入前 当年度収支差額		△55,786,904	△46,196,968	△9,589,936	
基本金組入額合計		△39,206,754	△32,215,024	△6,991,730	
当年度収支差額		△94,993,658	△78,411,992	△16,581,666	
前年度繰越差額		△1,844,907,430	△1,766,495,438	△78,411,992	
基本金取崩額		0	0	0	
翌年度繰越収支差額		△1,939,901,088	△1,844,907,430	△94,993,658	

（参考）

事業活動収入計	1,046,187,436	976,602,024	69,585,412
事業活動支出計	1,101,974,340	1,022,798,992	79,175,348

【事業収支内訳表】

令和7年度 事業収支内訳表（4月1日～3月31日）

（単位：円）

		科目	昇陽高等学校	昇陽中学校	合計
教育活動 収支	収入の部	学生生徒等納付金	357,563,267	49,874,164	407,437,431
		手数料収入	12,978,100	450,000	13,428,100
		寄付金	5,324,490	514,615	5,839,105
		経常費等補助金	486,324,183	39,278,232	525,602,415
		付随事業収入	1,337	83	1,420
		雑収入	62,462,390	18,870,333	81,332,723
		教育活動収入	924,653,767	108,987,427	1,033,641,194
	支出の部	人件費	588,408,982	62,128,678	650,537,660
		教育研究経費	326,482,323	62,987,342	389,469,665
		管理経費	39,783,795	6,192,674	45,976,469
		徴収不能等	0	0	0
		教育活動支出計	954,675,100	131,308,694	1,085,983,794
教育活動収支差額		△30,021,333	△22,321,267	△52,342,600	
教育活動外 収支	収入の部	受取利息・配当金	80,242	0	80,242
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	80,242	0	80,242
	支出の部	借入金等利息	2,011,546	0	2,011,546
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	2,011,546	0	2,011,546
	教育活動外収支差額		△1,931,304	0	△1,931,304
経常収支差額		△31,952,637	△22,321,267	△54,273,904	
特別 収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	12,466,000	0	12,466,000
		特別収入計	12,466,000	0	12,466,000
	支出の部	資産処分差額	0	0	0
		その他の特別支出	12,756,000	1,223,000	13,979,000
		特別支出計	12,756,000	1,223,000	13,979,000
	特別収支差額		△290,000	△1,223,000	△1,513,000
基本金組入前 当年度収支差額		△32,242,637	△23,544,267	△55,786,904	
基本金組入額合計		△39,206,754	0	△39,206,754	
当年度収支差額		△71,449,391	△23,544,267	△94,993,658	

（参考）

事業活動収入計	937,200,009	108,987,427	1,046,187,436
事業活動支出計	969,442,646	132,531,694	1,101,974,340

(3) 貸借対照表は、当該会計年度末における資産・負債・純資産を把握し、財政状況を示すものです。

【貸借対照表】

貸借対照表（令和 8 年 3 月 3 1 日現在）

（単位：億円）

科目	2025 年度（令和 7 年度）	2024 年度（令和 6 年度）	増 減
固定資産	2,407,564,697	2,429,426,233	△ 21,861,536
有形固定資産	2,394,246,366	2,415,296,169	△ 21,049,803
特定固定資産	8,891,641	8,860,982	30,659
その他の固定資産	4,426,690	5,269,082	△842,392
流動資産	423,189,570	338,206,203	84,983,367
資産の部合計	2,830,754,267	2,767,632,436	63,121,831
固定負債	256,749,694	227,191,700	29,557,994
長期借入金	219,010,000	198,100,000	20,910,000
流動負債	337,587,262	248,236,521	89,350,741
短期借入金	116,060,000	34,120,000	81,940,000
負債の部合計	594,336,956	475,428,221	118,908,735
基本金	4,176,318,399	4,137,111,645	39,206,754
第 1 号基本金	4,077,426,758	4,038,250,663	39,176,095
第 3 号基本金	8,891,641	8,860,982	30,659
第 4 号基本金	90,000,000	90,000,000	0
繰越収支差額	△1,939,901,088	△1,844,907,430	△94,993,658
純資産の部合計	2,236,417,311	2,292,204,215	△55,786,904
負債及び純資産の部合計	2,830,754,267	2,767,632,436	63,121,831

【財産目録】

財産目録（令和 8 年 3 月 3 1 日現在）

【財産総額】

（単位：億円）

科目	金額
資産総額	2,830,754,267
基本財産	2,398,673,056
運用財産	432,081,211
負債総額	594,336,956
正味資産	2,236,417,311